

安全データシート(SDS)

製品名:CESプライマー N-330

整理番号:PU7

作成日:2026 年 6 月 25 日

改訂日:—

1. 化学品及び会社情報

- 製品名:CESプライマー N-330
- 供給者:中央樹脂ケミカル株式会社
- 所在地:東京都台東区鳥越 1-29-6
- 電話番号:03-3851-2324
- 緊急連絡先:03-3851-2324
- 推奨用途:工業用接着剤
- 使用上の制限:食品用途不可、密閉空間での使用不可

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

分類項目	区分
引火性液体	区分 2
皮膚刺激性	区分 2
眼刺激性	区分 2A
麻酔作用(単回ばく露)	区分 3
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分 1
生殖毒性	区分 2
水生環境有害性(急性)	区分 2
水生環境有害性(長期)	区分 2

GHS ラベル要絵表示： 注意喚起語：危険



危険有害性情報

- H225: 高度に引火性の液体及び蒸気
- H315: 皮膚刺激
- H319: 強い眼刺激
- H336: 眠気又はめまいのおそれ
- H361: 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
- H372: 長期または反復ばく露による臓器(肝臓)への障害
- H401: 水生生物に有害

安全対策

- P210: 火気・熱・火花・高温面から遠ざける。禁煙。
- P233: 容器を密閉しておく。
- P240: 容器及び受け容器を接地する。
- P241: 防爆型の電気機器・換気装置を使用する。
- P242: 火花を発生させない工具を使用する。
- P243: 静電気放電に対する予防措置を講ずる。
- P260: 蒸気／ミストを吸入しないこと。
- P271: 屋外または換気の良い場所でのみ使用する。
- P280: 保護手袋・保護眼鏡・保護面を着用する。

応急処置

- P301+P310: 飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。
- P303+P361+P353: 皮膚に付着した場合: 汚染衣類をすぐ脱ぎ、大量の水で洗い流す
- P304+P340: 吸入した場合: 新鮮な空気のところへ速やかに移動し、呼吸しやすい姿勢で安静にさせる。
- P305+P351+P338: 眼に入った場合の処置: まぶたを開いたまま流水で十分に洗浄し、可能であればコンタクトレンズを外し、刺激が持続する場合は眼科医の診察を受ける。
- P308+P313: ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察／手当てを受けること。

保管

- P403+P233: 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- P405: 施錠して保管する。

- P403+P233:換気の良い場所で容器を密閉して保管する。
- P403+P240:容器および受け容器を接地し、静電気放電を防止する。

廃棄

- P501:内容物・容器を、国・地方自治体の規制に従って廃棄する。

3. 組成及び成分情報

成分名	含有量 (%)	CAS 番号	官報公示整理番号 (化審法)
メチルエチルケトン	30-40	78-93-3	2-542
酢酸エチル	5-15	141-78-6	2-726
トルエン	10-20	108-88-3	3-2
シクロヘキサノン	5-15	108-94-1	2-542
N,N-ジメチルホルムアミド	5-15	68-12-2	5-522
樹脂成分(接着剤固形分)	1-10	混合物	該当なし

4. 応急措置

・ 吸入した場合

蒸気を吸入した場合は直ちに新鮮な空気へ移動して安静にし、頭痛・めまい・吐き気・眠気などの症状が生じた場合は医師の診察を受け、特に DMF 蒸気は肝臓への影響があるため症状が軽度でも医療機関での確認が望ましい。

・ 皮膚に付着した場合

皮膚に付着した場合は直ちに汚染衣類・靴を脱いで大量の水と石鹼で十分に洗浄し、刺激・発赤・痛みが続く場合や広範囲に付着した場合は医師の診察を受け、汚染衣類は再使用前に洗浄し、遅発性の炎症が起こる可能性があるため必要に応じて経過観察を行う。

・ 眼に入った場合

眼に入った場合は直ちにまぶたを開いたまま流水で 15 分以上洗浄し、コンタクトレンズは容易に外せる場合のみ外し、洗浄後も痛み・充血・視力異常が続く場合は眼科医の診察を受け、強い刺激があった場合は角膜損傷の可能性があるので早期受診が望ましい。

・ 飲み込んだ場合

誤って飲み込んだ場合は吐かせずに口を水ですすぎ、意識がある場合のみ少量の水を飲ませ、意識がない場合は何も与えない

5. 火災時の措置

使用可能な消火剤

- ・ 泡消火剤(アルコール耐性泡が最適)
- ・ 乾燥粉末消火剤(ABC 粉末など)
- ・ 二酸化炭素(CO₂)

使用不適切な消火剤

- ・ 直射水(放水): 火勢を拡大させる可能性があるため。可燃性液体が飛散し危険ため。

特有の危険性

- ・ MEK・EA・トルエンは非常に低い引火点を持ち、常温で大量の可燃性蒸気を発生する。
- ・ 蒸気は空気より重く、低所に滞留し遠隔着火の危険がある。
- ・ DMF は燃焼時に有毒ガス(CO、NO_x)を発生する。
- ・ 容器が加熱されると内部圧力が急上昇し、破裂・飛散の危険性がある。
- ・ 液体が水に浮く性質があるため、水による消火は液体が拡散し火勢が拡大する危険がある。
- ・ 火災後も蒸気が残留し、再着火の危険が長時間続く。

消火活動時の保護措置

- ・ 消火活動者は 自給式呼吸器(SCBA)を着用する。
- ・ 耐熱性の防護服、防火手袋、防護靴を着用する。
- ・ 顔面保護具(フェイスシールド)を併用することが望ましい。
- ・ 風上側から消火活動を行い、蒸気の吸入を避ける。
- ・ 容器が加熱されている場合は破裂の危険があるため、安全距離を確保しながら冷却を優先する。
- ・ 可燃性蒸気が低所に滞留するため、床面・ピット・排水溝付近には近づかない。

その他の対応

- ・ 火災区域周辺の可燃物(紙・布・木材・油類)を速やかに除去し、延焼を防止する。
- ・ 消火水や泡が排水系へ流入しないよう、堰止めや吸収材で拡散を防止する。本製品は高度に引
- ・ 鎮火後も蒸気が残留している場合があり、再着火の危険があるため換気を徹底し、一定時間監視を継続する。

- 火災区域の蒸気濃度が安全レベルまで低下したことを確認してから立ち入りを再開する。
 - 容器・配管・設備の損傷（漏洩・腐食・変形・膨張）を点検し、異常があれば使用を停止する。
 - 残留物、消火水、汚染物は適切に回収し、産業廃棄物として処理する。
 - 火災原因を調査し、静電気対策・換気改善・保管方法の見直しなどの再発防止策を実施する。
-

6. 漏出時の措置

作業者の安全確保

- 漏洩を発見したら周囲に知らせ、不要な人員を速やかに退避させる。
- 風上側へ移動し、蒸気を吸入しないようにする。
- 漏洩区域をロープやコーンで囲い、立入禁止区域を設定する。
- 換気を最大限に強化し、蒸気が滞留しないようにする。
- 火気・静電気・電源を直ちに遮断し、着火源を完全に排除する。
- 作業者は有機溶剤用防毒マスク、耐溶剤手袋、保護眼鏡、防護衣を着用する。
- DMF は皮膚吸収性が高いため、皮膚暴露を避けるために長袖防護衣・耐溶剤手袋を必ず着用する。
- 大量漏洩時は送気式呼吸器と防護服（タイベック等）を使用する。

漏出源の制御

- 漏洩源が特定できる場合は、可能な範囲でバルブ閉止、容器の立て直し、密閉などを行う。
- 容器の破損が原因の場合は、二次漏洩を防ぐために安全な容器へ移し替える。
- ポンプや工具を使用する場合は、防爆仕様の機器を使用する。
- 漏洩が止まらない場合は、上長・安全管理者へ連絡し、必要に応じて消防署へ通報する。
- MEK・EA・トルエンは揮発性が極めて高いため、漏洩源周辺の換気を最優先で確保する。

拡散防止

- 排水口・溝・地下ピットへの流入を防ぐため、吸収材・土嚢・油吸着マットで堰止めする。
- 床面の傾斜を利用し、流出方向をコントロールする。
- 大量漏洩時は防油堤を設置し、流出範囲を限定する。
- 蒸気は空気より重く低所に滞留するため、床面付近の換気を特に強化する。
- 非防爆機器（掃除機・扇風機など）は絶対に使用しない。
- DMF は水溶性が高く排水系へ流入しやすいため、排水口周辺の封じ込めを徹底する。

回収方法

- 少量：不燃性吸収材（パーミキュライト、乾燥砂、オイル吸着材）で吸収し密閉容器へ。吸収材は密閉容器に回収し、「危険物」「廃棄物」と明示する。吸収材は密閉容器に回収し、「危険物」「廃棄物」と明示する。

- **大量:** 防油堤を設置し、流出範囲を限定する。ポンプで回収可能な場合は、防爆ポンプ・耐溶剤ホースを使用して回収する。残留分は吸収材で回収し、密閉容器に保管する。大量漏洩時は専門業者（産廃・環境対応業者）へ処理を依頼する。

二次災害防止

- 蒸気が低所に溜まりやすいため、床面付近の換気を特に強化する。
- 静電気放電を防ぐため、作業者・工具・容器を接地する。
- 漏洩区域での火花・火気・喫煙は禁止。
- 回収した廃棄物は産業廃棄物として適切に処理し、排水系への流入を防止する。
- DMF・トルエンはPRTR対象物質のため、漏洩量・回収量を記録し、必要に応じて届出を行う。
- 漏洩量、原因、対応内容を記録し、再発防止策（保管方法の改善、容器管理、静電気対策、教育訓練）を実施する。

7. 取扱い及び保管上の注意

一般注意

- 火気・火花・高温物の近くでの使用を禁止し、作業区域には「火気厳禁」を明示する。
- 揮発性が非常に高いため、作業場所は必ず換気を十分に確保し、局所排気装置を併用する。
- 容器は使用後すぐに密閉し、開放状態で放置しない。
- 飲食・喫煙は禁止し、作業後は手洗い・うがいを徹底する。
- 小分け作業は防爆エリアで行い、こぼれ・飛散を防止する。
- DMFは皮膚吸収性が高いため、皮膚暴露を避けるために防護衣・手袋を必ず着用する。
- 容器の腐食・膨張・変形・漏れがないか定期的に点検する。
- 蒸気は空気より重く低所に滞留するため、床面付近の換気を特に強化する。
- トルエン・MEK・EAは麻酔作用があるため、長時間の作業は避け、作業者を交代させる。
- 作業中に体調不良（頭痛・めまい・吐き気・眠気）が生じた場合は直ちに作業を中止し、医師の診察を受ける。
- DMFは肝毒性があるため、ばく露管理を徹底し、作業者の健康状態を定期的に確認する。
- 酸化剤・強酸・強アルカリとの接触を避け、反応性の高い物質と分離して取り扱う。

作業者の保護

- 有機溶剤用防毒マスク（A1～A2 カートリッジ推奨）、耐溶剤手袋（ニトリル・ブチル）、保護眼鏡またはフェイスシールドを着用する。
- 皮膚暴露を防ぐため、耐薬品性防護衣・耐油性安全靴を使用する。
- 蒸気ばく露を避けるため、密閉空間での作業は避け、必要に応じて送気式呼吸器を使用する。
- 長時間の作業は避け、作業者を交代させてばく露を低減する。
- 作業者には溶剤の危険性・応急措置・静電気対策について教育を行う。
- 作業中に体調不良（頭痛・めまい・吐き気）が生じた場合は直ちに作業を中止し、医師の診察を受ける。

- DMF は皮膚吸収性が高いため、手袋の破損・浸透を定期的を確認し、汚染衣類は速やかに交換する。
- 緊急シャワー・洗眼設備を作業区域に設置し、常に使用可能な状態に維持する。

設備・機器

- 防爆仕様の電気機器・照明・換気装置を使用し、火花発生源を排除する。
- 静電気放電を防ぐため、容器・配管・設備を確実に接地する。
- 液体移送時はアース線で容器同士を接続し、非火花工具を使用する。
- 耐溶剤ホース・防爆ポンプを使用し、劣化・ひび割れがないか定期点検する。
- 漏洩検知器(可燃性ガス検知器)を設置し、蒸気濃度を監視する。
- 密閉空間での作業は避け、必要な場合は送気式呼吸器を使用する。

混合物特有の注意

- 本製品は引火点が極めて低く、常温でも大量の可燃性蒸気を発生するため、静電気火花が重大な着火源となる。
- DMF は肝毒性・生殖毒性があるため、ばく露管理を厳格に行う。
- シクロヘキサノン強い刺激性を持つため、皮膚・眼の保護を徹底する。
- 蒸気は空気より重く、床面・ピット・排水溝などの低所に滞留しやすく、遠隔着火の危険が高い。
- 容器内圧が上昇しやすく、夏季や高温環境では膨張・破裂の危険がある。
- 水に溶けやすいDMFと、水に不溶なMEK・EA・トルエンが混在するため、漏洩時は排水系への流入を特に防止する。

保管

保管環境

- 直射日光を避け、冷暗所で密閉保管する。
- 揮発性が高いため、保管場所は換気が良く、蒸気が滞留しない構造とする。
- 容器は転倒・落下・衝撃を受けないよう安定した棚に保管する。
- 保管棚には「引火性液体」「火気厳禁」を明示する。
- 保管中も容器の膨張・変形・漏れがないか定期的に点検する。
- 開封後はできるだけ早期に使用し、長期保管を避ける。

温度管理

- 高温環境では蒸気圧が上昇し、容器膨張・破裂の危険があるため、できる限り低温で保管する。
- 夏季や直射日光下では容器温度が急上昇するため、遮光・冷却対策を行う。
- 暖房機器・熱源(ボイラー・蒸気配管・ヒーター)から十分に距離を取る。
- 温度変化が大きい場所(屋外倉庫・金属コンテナ)は避け、温度が安定した室内保管が望ましい。

保管区画

- ・ 保管区画は防爆仕様の換気設備を備え、蒸気が滞留しない構造とする。
- ・ 床面は不透水性(コンクリート・耐薬品塗装)とし、排水溝には流入防止措置を施す。
- ・ 区画内には火気・火花源(ヒーター、モーター、スイッチ類)を設置しない。
- ・ 酸化剤・可燃物・高反応性物質とは別区画で分離保管する。
- ・ 保管庫は施錠し、無関係者の立ち入りを禁止する。
- ・ 大量保管時は防油堤を設置し、漏洩時の二次流出を防止する。
- ・ 可燃性ガス検知器を設置し、異常時には警報が作動するようにする。
- ・ 保管区画には緊急シャワー・洗眼設備を近接配置する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理的対策

- ・ 作業場所には局所排気装置を設置し、蒸気が滞留しないよう換気を徹底する。
- ・ 密閉系での移送を推奨し、開放作業は最小限にする。
- ・ 揮発性が非常に高い(MEK・EA・トルエン)ため、作業開始前に換気設備の稼働を確認する。
- ・ DMF は皮膚吸収性および肝毒性があるため、ばく露管理を厳格に行う。
- ・ 作業者に溶剤の危険性と応急処置方法を教育する。
- ・ 長時間作業時は定期的に休憩し、体調を確認する。
- ・ 蒸気濃度が管理濃度を超える可能性がある場合は、作業者を交代させるか作業方法を見直す。

許容濃度(労働安全衛生法・日本産業衛生学会・ACGIH)

物質名	労働安全衛生法 管理濃度(ppm)	日本産業 衛生学会(ppm)	ACGIH(ppm)
メチルエチルケトン	200 ppm	200 ppm	200 ppm
酢酸エチル	200 ppm	200 ppm	400 ppm
トルエン	50 ppm	20 ppm	20 ppm
シクロヘキサノン	25 ppm	25 ppm	25 ppm
N,N-ジメチルホルムアミド	10 ppm	5 ppm	10 ppm

個人用保護具

- ・ 呼吸用保護具:有機ガス用防毒マスク(A1～A2 カートリッジ推奨)を使用する。
- ・ 蒸気濃度が高い場合、または管理濃度を超える可能性がある場合は、送気式呼吸器を使用する。
- ・ 手袋:ニトリルゴム、ブチルゴム、フッ素ゴムなど耐溶剤性の高いものを使用する。

- DMF は手袋浸透が早いため、定期的に交換し、破損・浸透を確認する。
- 眼の保護: 密閉型保護眼鏡またはフェイスシールドを着用する。
- 皮膚の保護: 耐溶剤性防護衣、長袖作業着耐油性安全靴を使用する。
- DMF は皮膚吸収性が高いため、皮膚暴露を避けるために袖口・首元の密閉性を確保する。
- 衛生対策: 作業後は手洗い・洗顔を徹底し、汚染衣類は再使用前に洗浄する。
- DMF が付着した衣類は速やかに交換し、長時間の皮膚接触を避ける。

環境ばく露防止

- 排水口・溝・河川・土壌への流出を防止し、作業区域には流入防止措置(堰、吸収材)を設置する。
- DMF は水溶性が高く排水系へ流入しやすいため、特に注意する。
- 揮発性が高いため、屋内では換気を強化し、蒸気が建屋外へ拡散しないよう管理する。
- 廃液・汚染物は産業廃棄物として適切に処理し、環境中へ放出しない。
- PRTR 対象物質(DMF・トルエン)を含むため、必要に応じて届出・記録管理を行う。
- 大量使用・大量保管時は、二次防護設備(防油堤、漏洩トレイ)を設置する。
- 排気・排水・周辺環境のモニタリングを定期的の実施し、異常があれば直ちに対策する。

9. 物理的及び化学的性質

- 外観: 無色～淡黄色の液体
- 臭い: 刺激性のある溶剤臭(MEK・EA のエステル臭、トルエンの芳香族臭を含む)
- pH: 適用外(非水系)
- 融点: $-130 \sim -30^{\circ}\text{C}$
- 沸点: $56 \sim 155^{\circ}\text{C}$
- 引火点: $-10 \sim 10^{\circ}\text{C}$ (非常に低い)
- 蒸気圧: 高い(20°C で MEK 約 10 kPa、EA 約 12 kPa、トルエン 約 3 kPa)
- 蒸気密度: 空気より重い(>1)
- 比重: $0.78 \sim 0.95$
- 溶解性: 水: DMF は完全混和、MEK・EA は部分溶解、トルエン・シクロヘキサノンは不溶、有機溶剤: 炭化水素系・ケトン系・エステル系に可溶
- 粘度: 低粘度(流動性が高い)
- 爆発限界(可燃範囲): $1.2 \sim 11 \text{ vol\%}$ (MEK 1.8-11.5%、EA 2.1-11.5%、トルエン 1.2-7.1%)
- オクタノール／水分配係数: MEK: 0.3・A: 0.7・トルエン: 2.7(疎水性が高い・シクロヘキサノン: 0.8・DMF: -1.0 (親水性))
- 蒸発速度: 速い(MEK・EA は非常に速い、トルエンは中程度、DMF は遅い)
- 自己発火温度: MEK: 404°C ・EA: 426°C ・トルエン: 480°C ・クロヘキサノン: 420°C ・DMF: 445°C ・
- 分解温度: 高温で分解し、CO、CO₂、NO_x、刺激性ガスを発生
- 粘度指数: 低い(温度変化に対して粘度が変動しやすい)

- 表面張力:低い(広がりやすく、漏洩時に拡散しやすい)
 - その他の特性:MEK・EAは揮発性が極めて高く蒸気が急速に拡散し、DMFは吸湿性があり水分を取り込みやすく、トルエンは芳香族溶剤で麻酔作用が強く、シクロヘキサノン刺激性が強く皮膚脱脂作用を有する。
-

10. 安定性及び反応性

安定性

- 通常の取扱い条件下では安定している。
- MEK・EA・トルエンは揮発性が極めて高く、常温でも大量の可燃性蒸気を発生する。
- DMFは比較的安定だが吸湿性があり、水分を取り込みやすい。
- 高温・火気・静電気存在下では急速に蒸発し、爆発性混合気を形成する。
- 容器内圧が温度上昇により急激に高まるため、夏季や高温環境では膨張・破裂の危険がある。

反応性

- 強力な酸化剤(過酸化物、硝酸、塩素、過マンガン酸塩など)と反応し、発熱・発火の危険がある。
- 強酸・強アルカリと接触すると分解反応や発熱を起こす可能性がある
- DMFは強塩基存在下で分解しやすく、加熱条件下では反応性が高まる。
- トルエンは光や熱により酸化されやすく、過酸化物を生成する可能性がある。
- 静電気放電が着火源となり、爆発性混合気を形成する危険がある。

危険な分解生成物

- 燃焼時:CO、CO₂、未燃炭化水素、刺激性ガス。
- 熱分解時:MEK・EA:低級アルデヒド、ケトン類・トルエン:ベンゼン、スチレン、芳香族化合物・DMF:一酸化炭素、ジメチルアミン、ホルムアルデヒド・シクロヘキサノン:刺激性有機酸・ケトン類
- 不完全燃焼時には有毒ガスが多量に発生するため、火災時は自給式呼吸器が必須。

避けるべき条件

- 高温、火花、裸火、静電気:引火点が低く、わずかな火花でも着火する。
- 密閉空間での蒸気蓄積:蒸気は空気より重く、低所に滞留して爆発下限界(LEL)を容易に超える。
- 直射日光、40℃以上の高温環境:容器内圧が急上昇し、膨張・破裂の危険がある。
- 酸化剤・強酸・強アルカリとの接触:発熱・分解・発火の危険がある。
- 非防爆機器の使用:電気火花が着火源となる。
- 水分の混入(DMF):DMFは吸湿性が高く、品質変化や反応性の変化を引き起こす可能性がある。

11. 有害性情報

急性毒性(吸入)

- MEK・EA・トルエン蒸気は中枢神経系を抑制し、頭痛、めまい、眠気、吐き気、倦怠感を引き起こす。
- 高濃度ばく露では協調運動障害、反応遅延、意識混濁が生じることがある。
- DMF 蒸気は吸入後に**肝臓への影響(肝機能障害)**を引き起こすことがある。
- シクロヘキサノンは刺激性が強く、鼻・喉の刺激、咳、呼吸困難を生じることがある。

急性毒性(皮膚)

- MEK・EA・シクロヘキサノンは脱脂作用が強く、皮膚の乾燥、発赤、ひび割れ、刺激痛を引き起こす。
- DMF は皮膚吸収性が高く、皮膚接触でも肝毒性を生じる可能性がある。
- トルエンは皮膚刺激性があり、長時間接触で炎症を起こすことがある。

急性毒性(眼)

- MEK・EA・シクロヘキサノンは強い刺激性を持ち、痛み、発赤、流涙、視界のかすみを引き起こす。
- DMF は眼刺激性があり、接触後に結膜炎様症状を生じることがある。

急性毒性(経口)

- 誤飲すると**胃腸障害(腹痛、吐き気、嘔吐)**を引き起こす。
- トルエン・MEK・EA は誤嚥により化学性肺炎を引き起こす危険がある。
- DMF は経口摂取で肝臓障害、腹痛、悪心、嘔吐を生じる可能性がある。

皮膚腐食性／刺激性

- 本混合物は皮膚刺激性 区分 2 に該当。
- MEK・EA・シクロヘキサノンの脱脂作用により、皮膚炎・乾燥・ひび割れを生じる。

眼刺激性

- 区分 2A(強い眼刺激)
- MEK・EA・シクロヘキサノンが主因で、接触後に強い痛み・発赤・流涙を伴う。

感作性(皮膚・呼吸器)

- 既知の感作性は低いが、DMF・トルエンは長期ばく露で皮膚感受性の変化を引き起こす可能性がある。
- 感作性化学物質としての分類はなし。

生殖毒性

- DMF: 区分 2(生殖能または胎児への悪影響の疑い)・物実験で胎児毒性・精巣毒性が報告されている。

- トルエンも高濃度ばく露で胎児発育への影響が示唆されている。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

- 区分 3: 麻酔作用(眠気・めまい)・EK・EA・トルエン蒸気により、眠気・めまい・中枢神経抑制が生じる。
- シクロヘキサノン呼吸器刺激性が強い。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

- DMF: 区分 1(肝臓)・長期ばく露で肝機能障害、肝腫大、肝細胞変性が報告されている。
- ルエン: 末梢神経障害の可能性(しびれ、感覚低下)。
- MEK は単独では神経毒性は弱い、他溶剤と併用で神経毒性を増強する可能性がある。

発がん性

- 主成分はいずれも主要な国際機関(IARC 等)で発がん性分類の対象外。
- DMF は一部の機関で「可能性あり」とされるが、GHS 分類では区分外。

吸入ばく露後の遅発性影響

- DMF は吸入後数時間～数日で肝機能障害が発現することがある。
- トルエンは長期ばく露で**中枢神経障害(記憶力低下、集中力低下)**を引き起こす可能性がある。

その他の有害性

- MEK・EA は揮発性が高く、蒸気が急速に拡散するため、短時間で高濃度ばく露に至る可能性がある。
- DMF は皮膚吸収性が高く、皮膚接触でも全身毒性を生じる。
- トルエンは麻酔作用が強く、意識障害を引き起こすことがある。
- シクロヘキサノンは刺激性が強く、皮膚脱脂作用を有する。

12. 環境影響情報

水生生物毒性

- 区分 2: 水生生物に有害。
- トルエンは魚類・甲殻類に対して急性毒性を示し、LC50・EC50 が低い。
- MEK・EA は比較的毒性は低い、高濃度では水生生物に影響を与える可能性がある。
- DMF は水溶性が高く、水生生物に対して中程度の毒性を示す。
- シクロヘキサノンは魚類に対して中程度の急性毒性を示す。
-

生分解性

- MEK・EA は比較的生分解性が高く、環境中で微生物により分解されやすい。
- トルエンは好気条件下で生分解されるが、完全分解には時間を要する。
- DMF は水中で比較的速やかに分解されるが、条件によっては残留する可能性がある。
- シクロヘキサノンには生分解性があるが、分解速度は中程度。
- 混合物全体としては、完全分解までに一定期間を要する。

生物蓄積性

- トルエンは疎水性が高く、生物蓄積性の可能性がある。
- MEK・EA・DMF・シクロヘキサノンは生物蓄積性は低いとされる。
- 混合物としては、蓄積性は中程度と評価される。

土壌移動性

- MEK・EA・トルエンは揮発性が高く、土壌中では速やかに大気へ移行する。
- DMF は水溶性が高く、土壌中で移動性が高い。
- シクロヘキサノンは中程度の移動性を示す。
- 排水口・地下ピットに流入した場合、地下水汚染の可能性がある。

13. 廃棄上の注意

- 内容物・吸収材・汚染物は産業廃棄物として処理する。
- 排水系へ直接流さない。
- 焼却処理する場合は、許可を受けた業者に委託する。
- 容器は完全に空にした後、適切に処理する。

14. 輸送上の注意

- UN 番号:1133(引火性液体、NOS)
- 容器は密閉し、転倒・破損防止措置を行う。
- 直射日光・高温を避け、火気厳禁とする。
- 輸送車両には消火器を備える。
- 漏洩時はエンジン停止・火気遮断・風上退避を徹底する。

15. 適用法令

労働安全衛生法

- 有機溶剤中毒予防規則(第2種)

PRTR 法

- 該当物質(EA・CH)を含む場合は届出対象

消防法

- 第4類 第1石油類(非水溶性)

大気汚染防止法

- 揮発性有機化合物(VOC)

水質汚濁防止法

- 排水基準の対象

化審法

- 既存化学物質(官報公示整理番号あり)

船舶安全法／航空法

- 危険物(引火性液体)として規制対象